

**M T I**



 COOL DESIGN.INC

---

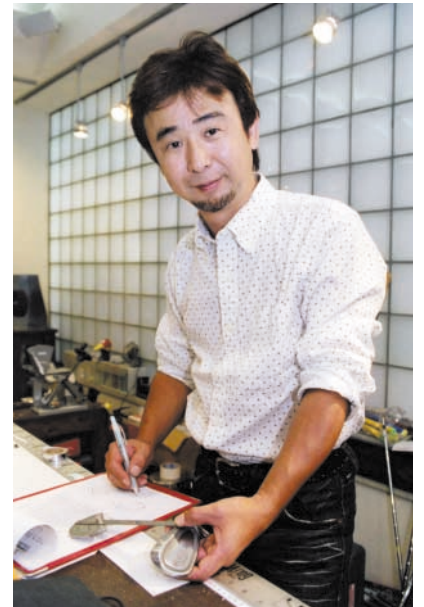
## 1 ツアーで話題のMTIウェッジ



日本ツアーで使用率トップを争う人気ウェッジで、多数のトッププロから信頼され、愛用されている。MTIウェッジは(有)クールデザイン(主宰:宮城裕治)の開発・設計によるもので、M=MIYAGI、T=TOUR、I=ISMのそれぞれの頭文字からのネーミング。使用するプロのパフォーマンスを最高レベルに引き出すべく設計、開発された。ツアーから生まれた実戦主義のギアである。

## 2 開発・設計者/宮城裕治氏

1962年8月30日生まれ。メーカー勤務時代にツアーレップ活動からプロ用クラブ開発に携わってきた。2006年4月に独立して(有)クールデザインを創設。現在、国内ツアーに於いて、独自のMTIウェッジを多くのトッププロを中心に供給している。ヘッドデザイン、ソール形状などを使用プロごとに設計することで多くのツアープロから支持される、クラブデザイナー。



## 3 横浜ゴム(株)との業務提携の経緯

横浜ゴム(株)は、宮城氏がツアープロの感性をゴルフクラブに具現化できる数少ない人物である点に早くから着目していた。そして、多くのゴルファーにとって満足度が高く、喜ばれる商品開発をできるパートナーと感じた一方で、宮城氏も、ツアーで供給しているMTIウェッジの商品化に向け、高品質、高精度、且つ独創的な商品を生み出す横浜ゴム(株)

であれば、MTIブランドを確実に訴求していけるとの思いを強めたことで販売契約を結ぶに至った。今後もPRGRブランドと異なる独立ブランド、MTIとして設計、開発元/(有)クールデザイン、製造元/横浜ゴム(株)、販売元/(株)PRGRとして展開する。

## 4 MTIウェッジ開発コンセプト

### アプローチショットが好きになる、得意になるウェッジ

#### ①2タイプのヘッドデザイン、ソール形状でインパクトコントロール



打ち込むディープ・インパクトか、払い打つシャロー・インパクトか。フェイスを開いてゆっくり、ふんわりした弾道で寄せたいのか、スクエアなフェイスのまま低めの弾道で寄せたいのか。ゴルファーのスイングタイプ、感性に対応しボール初速、打ち出し角、スピン量を最適にして寄せの確率アップを図るべく、それぞれに適したヘッドデザイン、ソール形状を採用した。

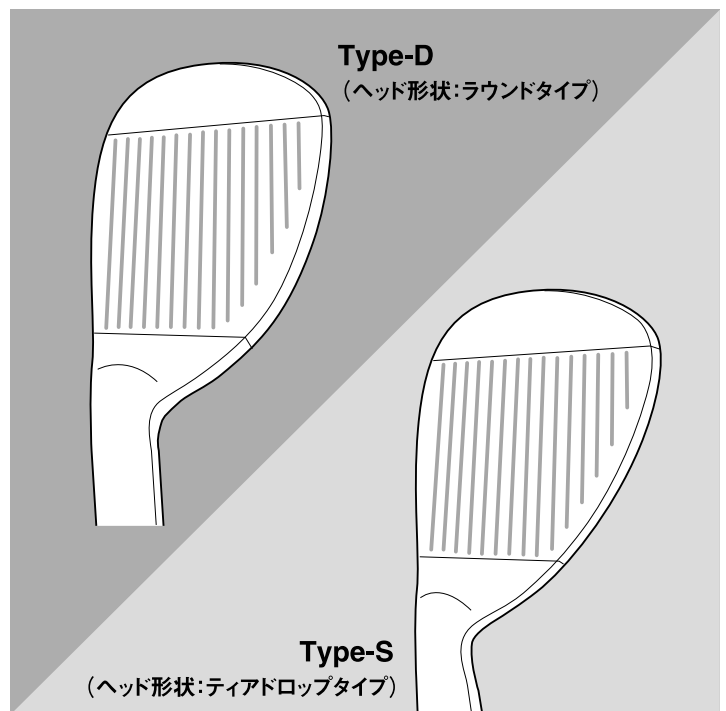
#### スタイリッシュなカラーリング

楽しくなるウェッジ。設計者の思いは、カラーリングにも表現されている。どちらのモデルともバックフェイス外周部に、AI(Aw)はシャインイエロー、SI(Sw)にはシャインレッドとスタイリッシュなカラーリングが施されている。さらにグリップエンド部も同色となり、ロフトがカラーで識別しやすくなっている。

#### ②新感覚アイアンウェッジ

ウェッジを特殊なクラブと位置づけるのではなく、ショートアイアンの延長でスイングできるクラブとして設計、開発された。フルショットからコントロールショット、アプローチショットまで対応可能なヘッドデザインとソール形状にしたアイアンウェッジ。短い重心距離設定で弾道、飛距離を確実にコントロールする。

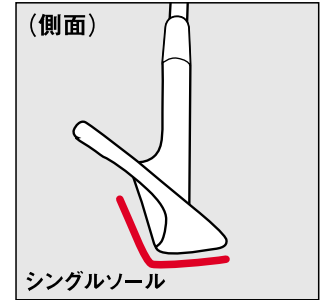
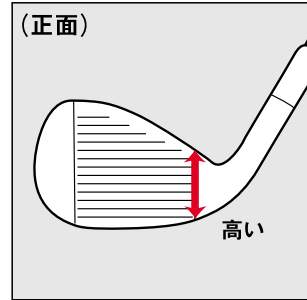
53度をAI、58度をSIとネーミングし、刻印したのは、それぞれアプローチアイアン、サンドアイアンを略したもので、MTIウェッジの特長を示している。どちらのモデルもAIでバンス角10度、SIは13度と設定されている。



## 5 2つのMTIウェッジ

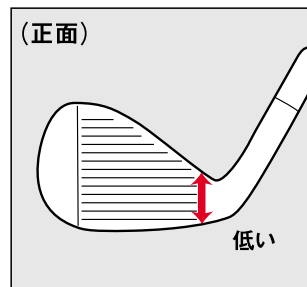
### Type-D と Type-S の特長

#### Type-D



軟鉄リアルミーリング加工のヘッドはラウンドタイプでヒール部も高さがあり、フェイスでボールを包み込んでターゲットに運ぶイメージを描かせる。ソールはシングルソール形状で接地面はフラットで広い。パンス効果大でソールの滑りもよく、アプローチショットの基本であるピッチ&ランやバンカーでのエクスプロージョンショットがやさしい。

#### Type-S



ヘッド素材、加工法はType-Dと同じだが、こちらのモデルのヘッドはティアドロップタイプでソール形状は、ツインソール形状。接地面はフラットだが、幅は狭めになる。フェイスを開いたり、閉じたりして弾道の高低や飛距離をコントロールしやすい。また、状況に応じてのショットイメージ、スイングイメージを描きやすく、多彩な技を駆使できるように設計されている。



# 6 MTIウェッジの秘密

## 開発設計者に聞く

### MTIウェッジの開発コンセプト

**Q** MTIと刻印されたウェッジ愛用プロをツアーでたくさん見かけます。ツアープロが愛用するウェッジというとアマチュアゴルファーには難しそうなイメージがありますが…

**A** それは、誤解されているようです。ツアーで戦うプロは、むしろウェッジに安心感と易しさを求めています。そうでなければ緊迫した状況でチャンスを作り、ピンチをしのぐための信頼のギアとはなりません。ただし、これだけは言えます。ツアープロからは、自分の打ち方に適したソール形状やバンス、ヘッドデザインに対して厳しいオーダーがあります。つまり、自分に合ったウェッジを手にして使いたがっているということです。アマチュアゴルファーの方は、打ち方を誤解していたり、自分の打ち方に適さないクラブを使ったりしていることが多いのではないのでしょうか。

**Q** すると、今回開発されたMTIウェッジも、安心感をもたらしてくれるクラブなのでしょうか？

**A** はい。アマチュアゴルファーは大別して二通りのタイプがいらっしゃいます。そこで2モデルを設計、開発して、選択してもらうことにしました。正しい選択をしてくだされれば、どちらのタイプのゴルファーでも安心して使えて、アプローチショットが好きになり、得意になるウェッジ。それを開発コンセプトにして完成させました。

### スタイリッシュなカラーリング

**Q** バックフェイスに、これまでのウェッジには見られなかったカラーリングが施されていますね。その狙いは？

**A** ウェッジというクラブは、もっと楽しんで使えるギアであるはずなのです。MTIウェッジは、手にした瞬間から心がときめくようなクラブであって欲しかった。もしかしたらチップインまであるんじゃないか…そんな期待を抱かせるクラブを色でも表現してみました。

Type-D



Type-S



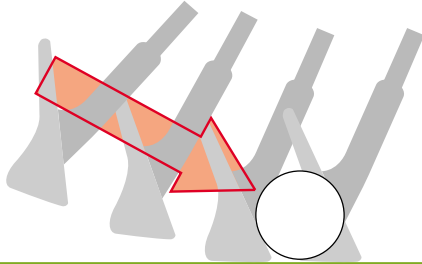
## ゴルファーのタイプとType-D & Type-Sモデルとの相性

**Q** さて、Type-DとType-Sの二つのモデルですが、選択の基準はどこにあるのですか？

**A** 正しい選択をしていただくには、まず、ゴルファー自身が、自分のスイングスタイルや弾道の好み、志向を知っていただく必要があります。アプローチショットのとき、ヘッドを走らせ、高めのソフト弾道で寄せていくイメージを描くタイプなのか。それともボールを右に置き、低めの弾道で寄せていくイメージを描くタイプなのか。前者ならType-Sが最適ですし、後者ならType-Dとの相性抜群ということになります。

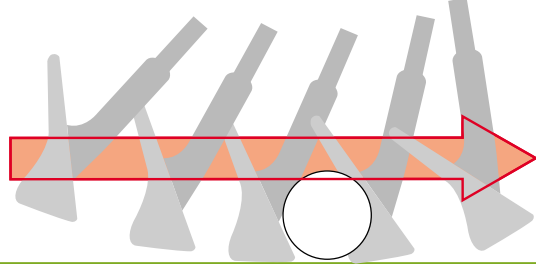
前者は、ボールを中央に置き、振幅とスイングスピードを大きく変えることなく、フェイスの開閉の度合いで距離をコントロールしたいタイプでもあります。また、後者はフェイスの開閉は少なく、ほとんどスクエアの状態のまま振幅の大きさに距離をコントロールしたいタイプともいえます。自分がどちらのタイプなのか。それを知ることで、最適モデルを手にすることができますし、正しい選択が行われたときに、それぞれのモデルとも最大機能が発揮されるようにフェイス、ソール形状とモデル別に設計しました。

### ■ 打ち込み (ディープ・インパクト) タイプ



対応モデル……Type-D

### ■ 払い打ち (シャロー・インパクト) タイプ



対応モデル……Type-S

## MTIウェッジのバンス&ロフト設定

**Q** ところで、両モデルともAIのロフトは53度でバンス角が10度、SIは58度と13度ということですが、ソールが跳ね返ったりすることはないのですか？

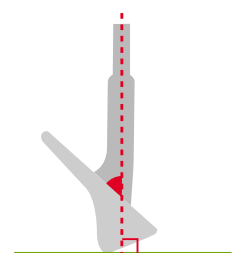
**A** それも、よくある誤解ですね。ロフト表示は、シャフトを地面と垂直にした状態で計ったものです。このとき、リーディングエッジは浮いた状態になります。実際にスイングしたとき、こうした状態でインパクトするものだと考えていらっしゃるゴルファーが多いのではないのでしょうか。誤解というのは、そこなんです。実はプロでも、誤解していることがあります。

**Q** 53度というロフトはPwとの飛距離差が大きくなりませんか？

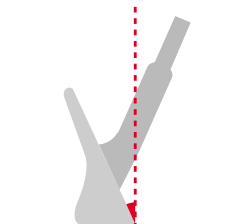
**A** 確かにそういう不安をいだかせるかもしれません。でも飛距離に直結するのは、インパクトロフトなんです。ボールをとらえますからバンス角は少なくなり、ロフトも立った状態になります。一時、プロの間でもローバンスソールが流行りましたが、ボールが飛ばない、ダフリやすいなどで、今はバンス角を増やす傾向があります。

このバンス角ですとフェイスとボールのコンタクトも強く、正確になりますし、スピンのかかったショットが生まれます。フルショットやコントロールショットでも十分な飛距離を打ち出してくれます。この場合は、ショートアイアンの延長としてMTIウェッジが威力を発揮します。

〈表示ロフト〉



〈インパクトロフト〉



## シングルソールデザインとツインソールデザイン

**Q** アプローチショットのときも同じことですか？

**A** 基本的には、同じです。シングルソールデザインでフラット面の大きなType-Dは、低めの弾道で寄せるイメージを描くゴルファーに適していると申し上げました。ボールを右に置いてディープな入射角でインパクトすると、ヘッドは着地したときの角度をキープしながら動こうとします。ですから、ボールの手前に着地しても、そのままソールが滑ってボールをきれいに拾ってくれる。これがバンスとソール形状の効果です。一方のType-Sは、フェイスを開いて

使うことが多いことから、ソール後方を削ってツインソール形状にしてあります。フェイスを開いてセットするとリーディングエッジは右を向いてしまいますが、ネックからフェイスにつながるポケット部分はターゲットを向くようになり気を使って設計しました。多くのツアープロに愛用してもらっている理由のひとつです。開いても構えやすく、大きなバンス角でも跳ねないようになっています。適正モデルを選択して、MTIウェッジでのショットを楽しんでいただけるよう願っています。

# MTI スペック表

ヘッド タイプ	ロフト (°)		長さ (")	シャフト		バランス	総重量 (g)
TYPE-D	Al	53	35.25	ダイナミックゴールド	S300	D-2	467
				NS950GH	S	D-0	445
					R	D-0	442
	SI	58	35	ダイナミックゴールド	S300	D-1	468
				NS950GH	S	C-9	446
					R	C-9	443
TYPE-S	Al	53	35.25	ダイナミックゴールド	S300	D-2	467
				NS950GH	S	D-0	445
					R	D-0	442
	SI	58	35	ダイナミックゴールド	S300	D-1	467
				NS950GH	S	C-9	445
					R	C-9	442

※上記スペックのデータはクラブ設計値です。

価格：オープン価格